

令和元年度第1回島根県総合教育会議

日時：令和元年8月2日（金）

11時00分～11時50分

場所：県庁 301会議室

○丸山知事 島根県知事の丸山でございます。4月の30日から新しい県知事として就任させていただきました。総合教育会議開催に当たり、一言御挨拶をさせていただきます。

皆様方には、本県の教育委員として県内の教育の充実発展に日ごろから熱心な御議論をいただいておりますこと、そしてさまざまな御立場で県政推進にお力添えいただいておりますことに心から厚く御礼を申し上げます。本日は、新たな教育ビジョンの策定に向けて、御検討いただいている総合教育審議会の肥後会長にも御臨席をいただき、重ねて御礼申し上げます。

私は、島根の人口減少に歯どめをかけたいということで、施策を訴えまして、このたび知事に就任をさせていただきました。その中でも、人づくり、島根を愛する人、そして自立に向けて、この地域社会の課題を創案しながら、島根を学び、島根を知って、我々のこれは行政の希望でありますので、教育上求めるわけではないのですけれども、島根に戻っていただける素地をつくっていただくことを大変切望しているところであります。こういった教育上の充実、島根の人材育成ということは、島根の将来に向けた浮沈にかかわる大事な行政面でありますので、ぜひともこの総合教育会議を含めて、また本日の委員の皆様方の教育委員会での御議論を通じて、教育の振興を進めていただきたいと思いますところであります。教育委員会など御意見等を踏まえて、体制整備は私の仕事でありますので、そういった内容についても一生懸命取り組んでいきたいと思っております。こういった意味で、引き続きぜひともお力添えをお願いしたいということで、お願いを申し上げ、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

○佐藤教育監 会議の進行については、事前に知事のほうから御指名あったので、教育監を務める佐藤が進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。また、先ほど知事のほうからもお話があったように、本日はオブザーバーとして島根県総合教育審議会の肥後会長にも御出席をいただいております。どうか活発な意見交換をよろしくお願いいたします。

そうすると、本日のテーマは先ほど知事のほうからもお話がありました、島根の教育について、教育大綱の方向性ということでもあります。初めに、新田教育長から本日のテーマの趣旨について御説明をお願いします。

○新田教育長 それでは、お手元の教育大綱の策定という資料をごらん願います。今年度初めての会議でもありますので、まず、この総合教育会議の位置づけということも含めて、本日のテーマについて御説明いたします。

1の(1)にあるように法律の改正が行われて、新しい教育委員会制度が平成27年度からスタートしています。この改正により、教育のいわゆる中立性・継続性・安定性、こういったものは引き続き確保しながら、地方の教育行政における責任の明確化、そして知事、首長と教育委員会の連携の強化、こういったことに向けた改革が行われたところがあります。

具体的には、2つの点が新たに加わっています。①教育に関する大綱、これを知事が策定することとなった点であります。地方公共団体における教育、学術文化の振興に関する総合的な推進を図るために、首長と教育委員会が協議・調整し大綱を策定するというふうになった点です。

2つ目、②としていますが、この大綱の策定や教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、あるいは、迅速に危機管理を行うべき場合など、そういった措置について、協議・調整を行う総合教育会議を設置すると、これが2点目の大きな改革であります。もとより、改革前においても、教育委員会はさまざまな分野で知事部局との連携に努めてきたところではありますが、こうした具体的な改革・取り組みにより、さらに連携を深め同じ認識を持って臨んでいくことになると、つながっていくというふうに考えております。現在の本県の教育大綱、平成28年3月に策定しているが、計画期間が今年度末ということとなっており、新たな教育大綱を、今年度策定することとなっております。

(3)に記載しているとおり、本日の会議においてまず、島根の教育、新しい教育大綱の策定に向け方向性などについて御意見をいただきたいというふうに考えております。そして策定に向けて、9月に第2回目、10月に第3回目の会議を予定しています。

2枚目をお願いします。教育大綱は、島根の教育、学術、文化の振興に関するいわば、根本的な方針ということになりますので、策定の方向性としては、現在、策定中であり島根県の全体の最上位の計画となる島根創生計画のうちから、教育委員会の所管に関する部分と知事部局で所管するもののうち、例えば、子育て支援・高等教育・文化振興など教育

に密接に関係する分野で構成することとなるというふうに考えております。また、計画の期間については、島根創生計画が現在5年間ということによって予定されておりますことから、これに合わせて、来年度から令和6年度までの5年間といたしてはどうかというふうに考えているところでございます。(2)は、現時点の島根創生計画のいわば骨子から、先ほど申し上げたような部分について抽出してみますと、どういうふうになるかというイメージで柱建てを行って見たところでございます。また、この資料には記しておりませんが、この教育大綱の策定と平行して、県の教育委員会としての最も基本的な教育振興の計画、現在の計画は、第2期島根教育ビジョンですが、この計画期間も今年度が最終年度となっておりますことから、教育委員会としては、次期教育ビジョンの策定作業も別途進めているところでございます。本日、御意見をいただくこの教育大綱と、教育委員会で策定を進めている次期教育ビジョンは、密接に関連させていく必要があるということから、本日は、総合教育審議会の会長を務めていただいている肥後先生にも御出席をいただいたというふうな状況でございます。

○佐藤教育監 続いて、野津政策企画局長から島根創生計画案骨子について御説明をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○野津政策企画局長 政策企画局長の野津です。どうぞよろしくお願いいたします。

お手元の島根創生計画案の骨子の資料をごらんください。行政の現在、最上位となる計画を一般的に総合計画と言っていますが、今の総合計画は島根総合発展計画という名称です。これが、今年度をもって終了する、期間が終了するという事。そして、平成27年から日本全国で地方創生が始まり、地方創生、人口減少対策をピックアップしたものが、島根県総合戦略ということで、これも5年計画ということで今年度が最終年度となっております。この2つが終了することに合わせて、新しい計画をつくる必要があります。新しい総合計画であり、新しい総合戦略をつくる必要がある、これを本県では、1つにまとめて今回つくろうということにしております。その名称を、島根創生計画と今呼んでいます。現在、基本的な考え方をまとめた骨子が公表しております、これをいろいろな各界の代表の方であるとか地域の方、さまざまな場面を通じて、またこういった場面も通じて、御意見を伺って、肉づけをしていくと、こういう作業をしているところでございます。今日いろいろ御意見をいただいたものをそういったことに反映していきたいなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今回、その中で、おおむね10年後、島根が目指す姿を将来像を人口減少に打ち勝ち、

笑顔で暮らせる島根というふうにはセットしています。10年後においても、まだまだ自然減の影響で人口減少が続いている場合もあるが、そういった社会にあっても、人々が、一人一人が愛着と誇りをもって幸せに暮らせるそういった社会を築いていきたいという将来像であります。この計画を3編で構成しています。後ほど御説明申し上げますが、この10年後の姿に向かって当面5カ年の計画をつくるというのが現在の作業であります。

めくっていただき、2ページです。島根県の人口ビジョンというものを同じく平成27年に策定して、そのグラフを見ていただくと、当時の状況でございます。何も手を打たなければ、点線の人口減少が続いていくと、限りなく人口が減っていくという状況が予測されていたのですけれども、これを四角で囲んである合計特殊出生率を2040年までに2.07、社会増減を2040年までに均衡させると、この実線の人口の推移になると、少子高齢化が現在あるので、なかなか直ちに人口減少はとまらないけれども、こういった対策を打てば、将来的には人口が安定していくという状況が見えたのと、これを目標にしましょうと、そのための総合戦略をつくりましょうということで、今、取り組んでいる最中ではありますが、これを3ページのほうでありますけれども、人口減少に対する県民の方々の期待を背景に、さらに加速化させ目標を前倒しにしようというふうにしています。具体的には、2035年までに特殊出生率を2.07、2030年までに社会移動を均衡させるという目標に前倒ししています。これをすると、そのグラフ上のほうの実線のほうの人口の流れに、推移になると、若干であるが上がると、こういった努力をしていきたいというふうに考えています。

めくっていただき4ページ、その計画全体の体系です。一番左は、先ほど申し上げた目標、その分野3編に分けて、1編目が特に人口減少対策に効果がある事業を特だして総合戦略という形で挙げています。2編目が、生活を支えるサービス、これもベースとなる県民生活のベースとなる部分を引き続き充実させていくと、3編目は、ソフト・ハードにわたり、安全安心な県土をつくる、暮らしを守るということであります。特に、第1編については基本目標のところ、産業振興そして子育て支援そして地域づくりと合わせて、人づくりをしっかりとやっていきたいと思いますということで、それぞれ政策体系をつくって、今、その肉づけを考えているところであります。

具体的には、5ページから書いておりますけれども、例えば、教育に関係ある部分で申し上げますと、5ページでいくと、産業振興のところであるが、そのための人材確保、こういったことで大きく関係があるというふうに考えていますし、めくっていただき6ページ

上のほう、子育て支援、これも子どものときからのいろいろな教育が関係するだろうというふうに思っています。そして7ページ、人づくりであります。島根を愛する人づくり、そしてその人の流れを人口減少対策として1つきちっとしたものをつくりたいというふうに考えていますし、3番では、女性活躍ということであらゆる分野での女性活躍であるとか子育てしながら働きやすい環境をつくるといったようなことにも特に着目して、今、検討を進めているところであります。

めくっていただき、第2編に入ると、8ページのほうが医療福祉関係、こちらの人材の養成といった関連があるし、9ページが特に、教育部分をピックアップしたところであります。教育の充実、スポーツ・文化芸術の振興、人権の尊重などあるいは、文化財等の活用とこういったところを挙げて、今、肉づけ作業をしておるというところであります。

○佐藤教育監 そうすると、早速意見交換にいきたいと思います。

まず初めに、知事から教育に対する期待やお考えをお話しいただきたいと思います。よろしくをお願いします。

○丸山知事 今、政策企画局長からもあったとおり、人口減少が進んでいきます。これは亡くなる方の数が生まれる方よりも多いという状況は、今の現状を含めあるので、そういった人口減少を少なめ、そしてそういった中でも、この厳しい中で何よりも大事なものは人材だと思っています。そして、教育の目的が、決して地元に残ってもらうということが目的でないということは十分承知をいたしていますが、これちょっと教育の点から離れるのですけれども、多分放っておく、自然体で何もしなければ、東京のメディアの情報であるとか、いろんな子どもさんが受け取る情報というのは、基本的には、東京や大阪や岡山、広島というところが主なところで、そこにいろんなチャンスがあって、そこを目指すのが当然でしょというふうな認識を持たれるのは、これはもう自然で出ていくのは、いたし方ないと思っています。ただ、現実には過疎過密、過疎の問題が非常に言われるのですけれども、過密の問題も当然あるわけでありまして。実際に、私も東京で子育てしましたがけれども、東京というのは交通機関、大変便利ですけれども、小さい子ども、保育園に預けるのに朝方の満員電車に乗って、一駅移動することはできないわけです。東京というのは、非常に交通は便利であるが、子どもを保育園に預けようと思うと、車を持っているところはわずかですから、自転車で子どもを乗せて、そしてその範囲内でしか保育園に預けられないというのが本当の現実です。であるので、やっぱり住んでいるところの近くに保育園がなければ、待機児童になってしまうという、そういう逆の過密の説明は、誰も、余りメディア

に載らないけれども、確実にあるし、そういう住むところとなると、これは町なかで住むところのごくわずかで、そうすると仕事に行くための時間を、片道1時間、1時間半、掛け算すると、2時間とか3時間仕事のために無給の、家庭にも属さない時間をそれに取り取られてしまうということを聞くと、やはり、私生活、プライベートからも圧迫されます。そういう現状というのは、なかなか伝わらないし、そういったそういう全ての逆の世界が島根にはあるわけでありますが、東京の悪口を言う人はないと思うが、島根という生活というのは、そういう過密の問題がない、過疎である問題はいろいろ頭にインプットされるけれども、過密でないといふことのメリットといふのは、きちんと大人が意識して、伝えていかないといけないといふふうに、私も、社会人、親としても、そこをどこまで教育でやっていただけるかといふのは難しい問題だと思いますけど、これは定着をしてもらおうといふことを強制をしたりすることがいけないように、やはり、逆に社会一般でいくと、片方の情報になってしまうところを補って、そしてどちらの人生を選ぶのかといふことを選んでもらう、公平な知識、やっぱり知見を持ってもらおうという意味で、島根の地域を知ってもらおうといふことを通じて、これは意識してよそだけではなくて、そういうよくない面も見られるかもしれない、それも含めてそういう教育、地域に開かれた教育をやっていただくといふことで、よそを理解してもらおうといふことにつながるといふ思いますので、そういった中で、この島根のよさ、島根のならではのよさ、東京に住んだときに、やはりああいうよさといふのは東京にはないなと分かってもらえれば。これは決して、片方にといいことではなくて、社会全般で流れる情報で不足しているところを我々としては社会教育とか、行政の普及啓発と思いますけど、補っていかないと、島根に生まれた子どもさん方が、本当に後で後悔するような選択をされないようにするために、やっぱり自立して自分の人生選んでもらうために必要ではないかと思っております。そういったことを含めて、この地域に開かれた教育、地域と連携した教育を進めていただく、地域を素材にした教育を進めていただくことが、大変そういう期待をいたしていますし、そういうことについて、御理解をいただくことが重要であります。そして、教育の前提となると、確かな学力、子どもの成長に応じて、この確かな学力を身につけていただいて、そういった知識をもとに、この地域の課題を国語的な能力、算数的な能力、社会科の知識、理科の知識を含めていろんな知識を使って、物事といふのを考えていくんだといふことを、複合的な素材といふのをを使って理解してもらおうといふことは、やはり確かな学力を保有しなきゃいけないなといふことを改めて再認識するいい機会であると思っておりますので、私も仕事していると、やはり文字を読

むところは国語であるし、そしてこれってどうやってうまくやるのかなとかというのは数学的で、あと論理的思考とかですね。やはり複合的な能力を使っていくので、そうやっていくとパーツ、パーツの基礎学力を補充していくということの必要性を認識してもらいたい計画になると思っており、それが生きる力につながっていくんだなというふうに思っています。

そしてもう一方で、いじめや不登校であるとかいろんな障がいがある方がいらっしゃいます。私も3人子育てしたけれども、同じ親から生まれた子どもでこんなに違うもんかと思っっています。二人目が生まれたときには、一人目と同じ子育てをすればいいんだろうなと思っっていたんですが、性格も全然違うから、やっぱり子育てというのは、掛け算じゃないんだなというのがひとつ、そういうふうに思うわけで、それが、そういう状況がまさに教室の中では、37人と違ったそういう状況のお子さんがいらっしゃる、そういった多様性、人の違い、そしてまた条件が違う方々に対する、生徒に対するきちんとしたフォローをしていかなきゃいけないという意味で、一人一人の教育ニーズに応じた多様な学びのスタイルを提供していくということも大事だと思うわけであります。そういったことを通じて、教育を充実していくわけでありますが、私どもも進めているとおり、働き方改革ということを行っていますけど、教員の先生方というのは、別の法律があり、時間外勤務手当がない中で、いろんな子どもに向き合うお仕事、そして保護者に向き合うお仕事、そして部活とか、いろんな仕事をしていただいているという状況が、若干甘えすぎてるんじゃないかという状況にも達しているんで、そういったことの改善をしていくことが、子どもさんがたに向き合う充実した教育につながっていくと思っっていますので、そういった教員の先生方への働き方へのあり方ということも今回のテーマであろうというふうに思っるところであります。いろんな方々のお力添えをいただいて、子どもさん方の学びをサポートしていくという大事な教育の行政であるので、そういった教育が充実していくように、それが島根の発展、そして、当然お子様方の豊かな人生につながるような、そういった取り組みを今回の大綱を通じて充実していけるように頑張っていきたいというふうに思っますので、ぜひともよろしくお願ひします。

○佐藤教育監 そうすると、次に私のほうから順次指名をさせていただきます。

また、知事におかれては、各委員の御意見に御質問等あったら、ご発言いただければと思っいます。よろしくお願ひします。

そうすると、まず初めに、藤田委員よろしくお願ひします。

○藤田委員 隠岐から選出されて教育委員させていただきます藤田と申します。よろしくお願ひします。

私、5人の子どもがいますが、強い思いがあります。それは、子どもたちが生まれ育ったふるさと、隠岐を心から愛し、どこに行っても誰に対してでも、自信を持って堂々とふるさとをすばらしいところであると発信できる、語れる人に育ててほしいということです。私の信念です。そのように育ててきたつもりではありますけれども。ふるさとを愛する心というものが、子どもたちの胸にあればあるほど、ふるさとを思う気持ちも強くなっていく、ふるさと教育であったり、しまね留学であったり、島根ならではの伝統文化そして人情、自然が、何度も言いますがけれども、すばらしい環境の中に、本当に子どもたちが一人一人、それぞれの個性を伸び伸びと伸ばせるよう、そして、生きる力を養えるように、またその中で広い視野を持てるような、そういったような環境づくりは、私たち大人に必要なかなと、で、そのためには、まず私たち大人が島根のよさを今以上に知り、堂々と自分たちが語る、島根っていいとこだよって自分たちが語って、その中で、島根の子育てに自信を持つ、まずは、大人が自信を持っていくことが必要だというふうに思っています。私たちがそのような、子どもたちにとって環境を、本当に今ある財産です。大切な財産が島根にはあります。それを生かし、私たち大人、保護者であったり地域であったり、それぞれが力を合わせて育てていくことが必要だというふうに考えます。そういったことをどんどんと理解できる、それこそ人づくりですけれども、子どもたちもですが、まず周りの大人たちもそれを認識できるような人づくりをしていく必要があるのではないかなというふうに思っています。

○丸山知事 まずは自分からである。ちょっと身につまされる。

○教育監 そうすると、続いて浦野委員。

○浦野委員 出雲から参りました浦野と申します。よろしくお願ひします。

こちらへ来て12年がたちました。ちょうど上の子どもが4年生、10歳になるちょっと前だったんですけれども、ここの前は名古屋に住んでおり、いわゆる都会というか、そういうところなんですけれども。4年生になったので、これから受験はどうしようとか勉強のほうでいくのかスポーツのほうでいくのかとかそういうことをちょっと考えた時期だったんです。そういうときに、島根県に主人の仕事の都合で来ることになったんですが、それで最初は不安でしたが、こちらに来て、都会で心配したいろんなことが全部なくなってしまって、もうすべて学校にお任せして、子どもは好きなことをやってというふうな育て方



をさせていただけたのが、本当にありがたいなという、私の島根県に対する思いです。

その子も今は20歳になり、今でもやっぱり子育てするなら絶対こっちがいいというふうに言っています。自分は、島根でいろんなことをさせてもらった。好きなこともさせてもらったし、勉強もさせてもらったし、いろんなことができるのはやっぱり島根だよねというふうに申しています。私もこういう環境をいただけたことは、すごくありがたいことだなというふうに感謝しています。たまたま、教育委員という仕事もさせていただくようになって、さらに島根県が、どういう方向を向いて子どもたちを育てているのかということも知るところとなりました。

その中で、私がやっぱりいいなと思ったのは、ふるさと教育です。本当に島根が好きな子どもさんたちが育っているなというふうに感じました。今、他県からの子どもさんたちも受け入れておられて、もう200人近いぐらいの人数になってきていると思うんですけども、去年おととしとそういう学校を視察させていただいて、直接子どもたちと話をさせていただきましたが、地元の子どもさんも他県から来られた子どもさんも、本当に島根のことが大好きで、地元の子どもさんが、よそから来られた子どもさんに島根のよさを気づかせてもらっているところがすごく素晴らしいなと思ひまして、そういう人の流れですね、先ほど政策企画局長さんからもお話がありましたけれども、新しい人の流れづくりということがありましたが、これがすごくいいふうに効果が出ているのではないかと思います。ちょっと交通の便では閉ざされているようなところになりますので、なかなか行き来がしにくいところではあると思うんですけども、あえてそういう人の流れをつくり出すことによって、自分たちが住んでいるところの新しい発見をしたりとか、それが将来的には人口増加であったり、新しい産業がまた生まれるきっかけにもなるかもしれませんし、この流れをこれからも絶やさずにいってほしいなというのが私の思いです。

○丸山知事 交通の便利が悪いって子どもさん、多分18歳までであると思うんですけど、車に乗ってしまうと、そんなに、東京は車を使いませんから、駐車場も全然少ない。18歳までの公共交通機関の不便さで大分不便だと思われるんですけど、18歳で車の免許を取って、車に乗ってしまうようになると本当に自由に、広島にこっちから行けますし、ちょっと町なかの運転が不安ですけど大阪までも行けますから、東京とか都会のよさっていうのは、常に渋谷とか新宿が近くないといけないかというふうに考えればわかることで、月に1回、2回あれば点数をもらうことになりますので、そういうその土日というか、タッチアンドアウェイみたいな感じじゃないですが、どちらを軸に置いて、別にあの両方の

いいところをとればよくて、どっちの軸を、どっちに便利でどっちに出かけていくかというふうな選択でいくとですね、だから、そういう意味では、子どもさんたちに、これは教育でやるという話になるかもしれませんが、今も含めまして18になれば免許取ったら大したことないからというふうに言っていかないと、不便だと思って出て行っちゃってるのは、本当に情報が足りてないなというふうに思います。駐車場も大体余裕を持ってありますし。それでその公共交通機関の少なさというところが不便だということで、高校生まではどうしても仕方ないんですけど、実は車が乗れるようになると、そこで大分状況が変わるということ子どもさんにイメージしてもらえれば。

○出雲委員 益田市から参っております、出雲と申します。よろしく願いいたします。

私も、藤田委員、浦野委員が言われたように、ふるさと教育、地域で子どもを育てるといふ思いが大切だと思います。私の地域には小学校と保育園があります。小学校はコミュニティスクールに指定されたこともあって、協議会を作り、地域全体で子どもたちを育てていくという取り組みをして、6年目、7年目ぐらいになるんですけども、島根を愛する、地域を愛する人づくりにすごく力を入れているところです。島根県には各地域でいろんな風土、伝統芸能があります。そういう地域の中で子どもたちが生まれて、幼児保育園、小学校、中学校と育っていき、たくさんの地域の大人の方々と一緒になって活動、接する中で、必然的にこの子たちの地域に対する思い、愛着を持つようになるんですね。そんな中で私の地域では、中学生、高校生のボランティアグループがあり活動をして6年目になります。始めた当時、中学生だった子どもたちが高校を卒業して、大学にいたり、地元で就職したりというような年代になってきたんですね。そんな世代の子供たちが必ず言うのが、何か地域に恩返し、お礼がしたいと、自分たちがその地域の中でいろんな人たちに育ててもらったという思いをすごくみんな持っています。

小さいころからいろんな世代の大人の方々とかかわってきたことによって、生まれてきた思いだと思います。そういう意味では、地域でその子どもを育てる、地域、家庭、学校と一緒にその子育てをしていくというのはすごく大事な思っています。

又、小学校の中に地域の方々が集まれるように、地域交流スペースを作ったことで、地域の大人の方々や高齢者の方々が集い活動をする姿を子どもたちが見たり、地域外の方々が来て、子供たちと接し活動をする中で、子どもたちは自分がこれから先どんな大人になりたいか、どんな職業につきたいか、将来の夢とか、目標を見つけて、それに向かって進

んでいく子どももいます。その活動を進めて行く上で、先ほど知事も言われましたけど働き方改革の問題もあります。例えば休日に地域の行事があったりすると、先生方も参加すると休日がなくなるというようなこともあります。今、地域と学校、公民館と学校を結んでくれるコーディネーターの方々が活躍されています。私の住む小学校にもコーディネーターの方が来て3年になるんですけども、コーディネーターの方の役割というのが、学校の先生方の働き方改革にもつながっているように思います。本来ならば教頭先生あたりが地域、公民館とのいろいろな話をしたり、学校のこと以外のことで動かれることが今まで多かったように思います。そういう事をコーディネーターの方を配置することによって、先生方に負担をかけずに、学校と地域との連携がスムーズにできるようになり、また総合的な学習の時間に地域に出向いて行って、地域の事を学習をする、そういう学習のコーディネートもしたりと、先生方の働き方改革にもつながっているように思います。これから益々コーディネーターの役割みたいなのも大事になってくるんじゃないかなと思っております。

今回、高校を卒業して大学に進学した子どもも、いずれ地元に戻ってきて何か地域のために働きたいという事で、毎年、私の地域に研修でこられる学生の活動を見て、一緒に参加し接する中で目標ができたんだろうと思います。そういう子どもがもし帰ってきたときに、地域の為になにかするとしたら、一番身近なのは行政、市役所などで働く事かと思いますが、市役所に就職すると部署いろんな部署があって、自分がやりたい地域にかかわるそういう部署に配属にならないかもしれない、そういう意味ではコーディネーターという職業があるといいなと思います。いずれにしても地域ぐるみで子どもを育てるという事、学校と地域を結ぶコーディネーター役割は必要かなと思います。

○丸山知事 自分たちの教育とか、学びの課程で多くの方々に携わっていただいているのは、多分子どもさんたちにとって大きな自信になると思います。それがやっぱり感謝につながっていると思いますので、やっぱりそういう地域のつながりの中で、多分多くの閉ざされた学校に比べれば、はるかにたくさんの大人と接する中で育ってきた環境というのは、本当に大切に、それをなるべくするためには、なかなか学校の先生からすると教える子どもに向き合うというところが本当のコア、自分の仕事ですので、そこをサポートする体制が必要になってくるとは、皆様おっしゃいますようにあると思っています。

○真田委員 県立高校の教員を37年間させていただき、学校教育について経験があり、いろいろと考えることがあります。

まず、現行のしまね教育ビジョン21において、島根を愛し、世界を志す、心豊かな人材育成するということを唱えています。島根を愛すというのは先ほどの委員の方々が言われましたけれども、魅力化事業や、ふるさと教育において、島根を愛する心が浸透してきて、各地域で成果を上げていると思います。世界を志すということになってくるとなかなか難しいところがあります。子ども一人一人、児童生徒一人一人が希望する世界で、本当に活躍するための学力というのは何だろ、何を持って学力とするか、永遠のテーマのような感じがします。

私も30数年か前に東京へ出て、4年たって島根に帰ってきて、島根の良さというのがわかりました。ただ、一旦は都会に憧れます。そのためには、私は、生徒をたくさん県外へ送り出しましたが、帰ってくるための仕事、働き場所をつくっていかないと、帰って来たくとも働く場所が無くて帰ってくるできない現実があります。10年後には国体もあるわけで、その辺のところをまた知事の力で何とか確保していただきたい。島根で就職している者は、地域、社会の中核として今いろんなところで活躍しています。島根県において、若者を活性化していくことも大事じゃないかなということが1点目です。

2点目は、優秀な教職員の確保ということをお願いしたいなと思います。教職員の確保、先ほどいろんなことをお話しになって、もうその通りだと思うんですけども、優秀な人を地域で育ててもらうための何らかの施策がないと、人材の確保が困難になると思います。ブラックでもないですけどなかなかつらい仕事だとか、クレームに対する対応等ありますが、やっぱり教員というのは人を育てるという素晴らしい仕事なんで、是非そういう意味でも優秀な人材を確保するための何かあればなあというふうに思っております。

それから、3点目は地域での学校の存在は非常に大きいということです。やっぱり社会教育上もそうですし、これから高等学校もコンソーシアムをつくらうというところで、いろんなところでこれから努力が始まる場所です。やっぱり学校の存在というのは中山間地域等々にとっては大切なことなので、今教員定数等々問題も有りますが、ぜひ県単での支援をしていただければ、島根らしい教育は随分浸透していくんじゃないかなと思っているので、是非引き続き支援をお願いしたいと思います。

この3点、お話しできればと思って今日まいりました。よろしくお願ひしたいと思ひます。

○丸山知事 若い方々はそもそも出ていく。学校、大学の場合だとしても出られます。仕事の面で再度戻っていただくとか残っていただくには、仕事の量とか質、話題、どんな仕

事があるのか、待遇なりの意味で、そういう意味で雇用の量と質の確保ということに続きますので。優秀な人材確保、勤務環境っていうのは、人にもものを教えるということをやっている方への保護者の皆さんのリスペクトが、非常に問題があるというふうに思っています。やはり人にもものを教わるっていう子どもさんが、教わる方に対して敬意を持って接することが基本であると。それをきちんと、親御さんがその姿勢をきちんと小さいときから身につけさせておかないと、その子どもさんのためにならないじゃないですか。学校の中だけじゃなくて、結局私もいまだにそうですけども、人に教えていただいて自分がいろんな仕事をするにしたって、何にしたって人に教わってわかる、やっとなされる仕事ばかりですから、そういうその人の教えを受ける立場が、教えられる方に対する畏敬の念を有するという、そういう基本的なところが核になればいいと思っています。どういった環境を改善するか、就労改善、いろんな課題がありますけど、教育をしていただいている教育現場の環境向上というのは、現場の御意見を伺いながら対応していきたいというふうに思っております。よろしくお願いたします。

○佐藤教育監 ありがとうございます。続きまして、林委員、よろしくお願いたします。

○林委員 邑智郡美郷町の林と申します。よろしくお願いたします。

私は、20年前まで関東のほうで会社員をしておりました。結婚を機に地元へ戻りまして、両親がやっておりました旅館を営んでおります。今子どもが高校生、中学生、小学生と3人おまして、私は49才で、ちょうど知事と、同い年で、同じ世代の子どもを持つ親世代です。先ほど知事から過密のデメリットというか、都会の子育ての難しさというお話を伺いましたけども、私はこちらに戻ってから子どもを育てたのですが、県や地元行政の子育て支援もあり、非常に恵まれた環境で育てることができたなという思いがあります。ふるさと教育に関して言えば、非常に地元の方の御支援をいただいていると強く感じております。美郷町の小学校は、平成16年の町村合併を迎えるときに旧邑智町校区、旧大和村校区で各1校ずつに統合しました。邑智小学校では、6つの小学校が1つの小学校になってしまったということで、なくなった地域では非常に寂しい、子どもの声が聞けなくなったと今でも言われています。ただ、邑智小学校では、6年間で校区である6つの地域、全てのよさを学ぼうということで、1年生から6年生までの間に米づくりを経験したりだとか、竹細工を習ったり、いろんな形で6地域の方々と触れ合う学習があり、各地域の方々が献身的に協力をして下さっています。私の子どもどものときに比べると、非常に地域の方と交流する機会が多く、地域のよさを感じたり、愛着心・郷土愛という思いを育みやすい環境にあると思います。心身が育つ時期にたくさんの地域の方々から地元の文化や産業を学べるのは1つ

の魅力といたしますか、島根のふるさと教育の強みだと思っております。

教育大綱を策定するにあたり、これが島根の教育なんだと、教育の方向性が判りやすく示すことができればいいなと思っております。

○丸山知事 若手で、この邑智、大和とか、こういうふうになったところを、やっぱり学びの仕方を地区に戻ってまたもっていく、そういう問題を是正してよりよい方法で総合学習をしておられる。物事が具体的であるほうが、先ほど言われた課題解決型の学習っていうのは子どもさんに響きますので、そういうそのいろんな改善を見ながら現場で頑張っ、本当にしばらく教育の力、いい物差しとかそういう力が維持、発揮していけるように環境を整備していかなきゃいけないっていうふうに思います。

○佐藤教育監 最後に会長のほうからいいですか。

○肥後総合教育審議会会長 私は知事と同じ福岡県人です。島根県教育委員会以外に県の委員としては私学審議会や子ども・子育て推進会議の委員を拝命しています。来年度から5年間の計画ということでは、教育施策だけではなく、子ども・子育て支援計画の策定も、ちょうど今年度、どの市でもこれに取り組んでいるところです。私に関係しているのは、松江市、出雲市、雲南市ですが、量の見込みを出すために子どもの数を推計しています。たとえば松江市については、現在の計画策定段階では、年間出生数はおよそ1,800で推移していたのですが、ここ5年間で1,400人程度にまで緩やかに下降してきており、令和3年度には松江市の就学前児童数は1万人を切るのではないかという推計になっています。県庁所在地の松江がこのよう状況ですから、人口問題は県全体として非常に大きな課題であり、知事が掲げられたように、これに何とか打ち勝たなきゃいけないというふうに真剣に思っているところです。

先ほど自動車免許の話がありましたが、つい先日の私学審議会では大田の自動車学校が廃校になるという事案が出ていました。自動車学校がみんな学校法人をもっているわけではなく、たまたまそこが私立学校（学校法人）だったので、廃校は私学審議会の案件となったわけですが、そういうことになると、たとえば大田高校を卒業した生徒たちは、どこで免許を取るのかという課題になります。おそらくスクールバスか何かで出雲市の自動車学校に通うことになるのでしょう。そんな具合に人口減とつながっている教育の課題を、さまざまな部分で感じているところです。

そうした中、隠岐島前高校の話にも、大学教育との連携という立場から、少しかかわらせていただきました。勉強になったことはたくさんありますが、中でも「発信性の高い教

育」を行うということが非常に重要で、それもその県内だけではなく、県外、さらには国外に向けて、ここにしかない、発信性の高い教育をめざすことが効果があるのだな、ということ学びました。もちろんそれを支えているのは高校教育、学校教育だけではなく、地域の教育熱といますか、行政が中心となって地域の大人たちがそれを支えてきたという点も重要だと感じました。

そういった状況をどうつくるかということに関して、先程来、多くの教育委員の皆さまがおっしゃったとおりだと思います。知事も冒頭で言われましたが「過密じゃないことのメリット」というのが非常に重要で、子ども一人が受け取る教育の恩恵が大きいことが島根の強みの一つであり、この地域の最大の魅力でもあります。私、水郷祭の花火のときにいつも思うのですが、松江の花火は1人当たりの「花火率」が高い。つまり打ち上げる数を、見物人の数で割ると...というお話です。これがいわゆる過疎地域の子どものと教育の関係のベースだと思いますが、人口が減っていくペースに合わせて、一律に都会と同じ水準（国の決めた水準）を適用してしまうと、そのメリットが失われることになります。

今、お手元にお配りしたのは、現在、私が会長を拝命している島根県総合教育審議会というところの現状の話し合い段階のプランです。現在のプランはA4の縦置きで、これが先ほどから少しお話しに出てくる「島根を愛し、世界を志す」という現在のビジョンですが、時間がありませんのでその説明は割愛いたします。A3で横置きのものを見てください。この委員会は飯南町の矢飼教育長さんに副会長を務めていただいております、総勢11名の委員で審議を重ねているところです。今年の3月に諮問をいただきまして、来年度から5年間の県の教育の基本理念や方向性を定める「しまね教育ビジョン21」を策定中です。

現在までに5月と7月と2回議論をさせていただきました後、今回、私のほうから11名の委員さんに、今後5年間の、島根県の教育のあるべき姿、望ましいあり方ということについてそれぞれどのようなことをお考えかレポートとして提出してください、という宿題を出しました。ずいぶん乱暴なお願いでしたが、なんと全員の委員さんからレポートが出てきました。先ほどのA3資料は、それを私のほうで整理させていただいたものです。一番左の列は「こんな人を！」という人間像に関するイメージです。やはり冒頭には島根を愛するとか、ふるさと島根、誇りを持つ、あるいは島根から世界を目指す、島根を愛し世界を呼び込む...といった発想が出ています。

次の列は、そうしためざす人物像にはこんな力が必要ではないか、「こんな力を！」という育成したい力についてのイメージです。さらにその右列は、ではそのためにはどんな

教育をしたらいいか、「こんな教育を！」という充実させたい教育の中身・環境のキーワードを並べています。そこにもやはり島根らしいとか、ふるさととか文化とか、島根の魅力に立脚したというようなこともある。それから、今の時代はやはり個性、主体性、多様性、開かれた…といったことが重要なキーワードになっていることがわかります。

さらにその枠の右側をご覧くださいますと、どんな学校がいいのかという学校のイメージ、教員のイメージが出ていますが、その下には家庭や保護者のイメージ、地域の大人のイメージという具合に出てまいります。

以上、現在、総合教育審議会では、これだけのものが出てきており、これらをもとに、これから少し整理をかけ、島根県らしい今から5年間の教育のプランとしては、どのようなものがよいのかという議論を進めていきたいと思っております。その際にはここで議論され、知事が策定する教育の大綱との整合をとりながら進んでいければと考えています。

○丸山知事 審議会で全体を調整していただいて、御検討いただいているのは本当にありがたいなと思ひまして、後藤新平、明治時代の、東京大震災のときの東京市長ですね。後の外務大臣の。死ぬ3日前ぐらいに金を残すぞ、事業を残すようにしよう、人を残すのは事業だというふうに言ったそうでした、金は使っちゃえばなくなるでしょ、事業は始めるところかもしれないけど、一番残るものって、一番残して世の中に貢献するのって人だって、これは多分解説だと思うんです。私の推測なんですけども、事業っていうのは、事業が残るっていう意味では現状維持です。いい人材をつくれればいい人をつくってくれるので、いい人材を育てるっていうのは、いいことを拡散していることになりますので、本当に教育っていうのは大事なことでありまして、本当に後々に与える影響が、これがそのプラスで、必ずこの島根に影響を与えますので、本当にこの2つの方向が同じ方向で動いているものを、よりプラスのほうに広げていただいているところで、プランとの整合を取るといふことをいいますと、先生のほうからおかしいということがあれば、これは上位、下位というのは当然ないので、お互いに視点を合わせて、よりよいものをつくっていくことで御指導をお願いします。

○佐藤教育監 ありがとうございます。

各委員の皆様には、さまざまな角度から御意見をいただきました。また、知事にはそれぞれにコメントをいただきありがとうございました。

そうしますと、次回の会議は、本日の意見を踏まえまして、教育大綱骨子（案）を準備したいというふうに思っております。よろしく願いいたします。



以上で令和元年度第1回総合教育会議を終了します。ありがとうございました。